

# 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

(平成 30 年 12 月 6 日 午後 3 時 25 分)

●議長 (小林幸雄) それでは、会議を再開いたします。

通告の 5 伊藤博美議員。

- 1 横川町長の 2 期目の政治姿勢について
- 2 新規就農者への支援について
- 3 除雪について

議席番号 4 番・伊藤博美議員。

◆ 4 番 (伊藤博美) 議席番号 4 番・伊藤博美でございます。横川町政 2 期目の門出にあたりまして、通告に従いまして質問を行います。先の町長選は 1 日で終了してしまいました。それもまた選挙広報など公式の手段での公約は示せませんでした。横川後援会でしようかね、示された確かな町づくり 2 期目に当たっての唯一の公約文書かと思われまます。また、昨日の議会再開に当たって、その挨拶の中でも、確かな町づくりに向けた新たな決意も示されました。日頃より地方自治体の仕事は、住民福祉の向上なんだと発言しておられます。2 期目にあたりまして、住民の声を真摯に受け止めて、町政運営に当たっていただくことを期待しているところでございます。

さて、同僚議員から様々なご意見ございましたので、なるべく当たらないようにはしたいと思っております。最初に町内企業との関係についてですが、横川町長の後援会にありました確かな町づくりという中で、町内企業との協力を進めて行くというものがございました。町内には大きな企業はございません。中小の小規模の企業が多くあるわけですけれども、どんな協力を具体的に進めて行くのか、このへんに対してお聞きをしたいと思えます。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 伊藤博美議員さんのご質問にお答えさせていただきたいと思えます。2 期目に当たって、町内企業との協力をどういうふうに進めるんだと、こういう事でございます。具体的に言うのは、なかなか難しい部分がある、実はあるのですけれども、私は先ほどのご質問の中でも、今現代の中で大変労働力が不足してきている。こういうことが今、町内企業でも起こっているということを、昨年ある企業の役員さんからお聞きしました。私はやはり、この町内の企業が同じ町内で、まさにこの発展をしていただくということは、極めて町の活性化にとっても大事なことであるというふうに思えます。そういう中では、ささやかではございますけれども、ひとつはやはりそういった人材募集等々に行政としても、ホームページなり、これちょっといろんな法律で、どういうふうになるのか、あれなのですが、広報なり、積極的にそういった分野をお知らせを含めて、ひとつは協力していくというのも大事なことはないかなというふうに思っています。具体的にどういうふうに進められるか、また詰めてまいりたいと思えますが、そんなよ

うなことも思っております。そしてこれは前々からやっておりますけれども、好景気になってくれば、それなりの事業拡大もするというようなことも、企業としてはあるわけでございますので、制度としてある、優遇措置といいますか、そういったことも大いに PR をして、よりこの信濃町の中でしっかりと企業が歩んでいかれる、そんなことを私どももできる範囲で、後押しをしていきたいというのが、そういう協力体制ということでございます。いろいろな中で町内企業の皆さんに、本当に既存企業の皆さん方も頑張っておられるわけでございます。そういったことを私ども行政としても重く受け止めながら、どういう協力を更にできるのか、そんなことも含めて対応してまいりたいという思いでございます。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) おっしゃられるとおり町には中小企業が多いわけございまして、人手不足となりますと、一番影響をやはり受けるのが中小企業だと思います。そういう点でも町のほうからの少しの力でも寄せていただければ、中小企業も大きな力を得たということで元気になると。またそれが町の活性化に繋がるだろうというふうに考えます。私事でたいへん恐縮なのですが、私も前勤めていた会社がございまして、その集まり集いというものが、先日ありました。うれしい事があったのですね。うれしい事と言いますのは、その会社、信濃町で言えば老舗中の老舗みたいなところですよ。まもなく 1 世紀になるという会社なのですね。その中でできたのが、来年の春に 5 年ぶりに、新規の人を入社させることができるのですということだったのですね。それは思いもよらないことでした。私どももそういう集いでもって会った時に、会社のほうに、何とかその上のほうの会社から、少しでも良いから仕事をこっちのほうに回してもらいたいようなことはできませんかと、そういう働きかけをやってほしいんだがなという話をしましたら、そういう話はしてるのですと、だけれどなかなか向こうの会社が、こっちのほうに仕事を回してくれないので、残念なんだけれども、数年ぶりに新規の人を 2 人なのですが、予定してますというふうな事でした。大変私うれしい事だなと思いました。そうしてまたその会社の計画のやつを示したのですけれども、数字は全部示してくれたのですが、0.8 パーセントぐらいはちょっと目標に届かないけれども、それでも頑張ってきたというふうな企業でしたね。少しでもいいからそういう企業があれば、ぜひ多くの人を雇っていただいて、従業員が、今のことですから、人手不足ということもありますけれども、私これはどうかと思うのですけれども、町をあげて従業員を探しますと。だからぜひ、ひとつ 20 人 30 人とたくさん雇ってくれるのでしたら、町をあげても探しますよというふうなことを言ってきました。ぜひこういった会社のためにも、企業努力に答えていただいて、町もしっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。

次に病院の関係なのですが、同僚議員からいくつも出されております。先ほどの同僚議員の中で、報告書の全町公開つまり開示は、積極的には行わないということでした。では、住民との合意形成、これをどういう形で諮るのかなというふうに思っているのですが、何か具体的な住民の皆さんに合意を得るような施策はあるのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

■町長 (横川正知) これは先ほどの議員さんにもお答えをさせていただいているのですが、スケジュールの中で、今最初の計画をしっかりと立ち上げたいんだということをやっているわけでありまして。その段階で、しかるべき時期に住民説明会と言いますか、そんなことは当然やっていく事が、説明責任を果たすということになってくるんじゃないかなというふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) 住民説明会を行うということでした。こういうことが良いのかどうなのか、私わかりませんが、これから年度末にかけて、各区とかそれから組の中で、総会が開かれます。そうした中で、職員の皆さんが出かけて行った時に、少し触れられてもらえば、たくさんの方が聞いてもらえる機会があるのではないかなと思います。これが適当であるかはわかりませんが、わかりませんが、そういう機会もとらえていただければ良いのではないかなと思います。それから病院の形の問題なのですが、私もいろんな関係の皆さん方と話をしたり、あるいはアンケートを見てみますと、私は信越病院そのものは、高度な医療技術をもった病院というものは、住民のみなさんは考えていないんじゃないかと。信濃町には開業医がありませんので、町医者と言いますか、かかりつけの病院というイメージを、非常に強く持っているんじゃないかなと思います。高度医療ですとか、高度な技術を持った医療については、また他の大きな病院のほうでやっていただいて、町の病院が、かかりつけ医になるような、そんな病院をぜひ作っていただけたらなというふうに思っております。これは今、新年度予算に当たりますから、病院の建設に当たっての、先ほどの同僚議員の質問で、来年の1月にスタートを切るということでした。基本計画ですね。新年度に当たります、どうなのでしょう。基本計画に当たっての予算を考えているのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 基本計画をということのスケジュール案を先ほどもお話ししたのですが、できるだけ早めに議会の皆さん方にも、改めて予算をご審議いただいて、スタートにこぎつけるような、そんなスケジュールを持って進みたいなというふうに思っております。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) それでは予算編成にむけて、また基本計画をしっかりと練っていただきたいなというふうに思います。

次にこれも同僚議員からありました、国保の関係ですが、昨日ですか、信濃毎日新聞で長野県内の国保料の増減の関係の一覧表が出ておりました。信濃町は県の平均からは下回っておりますけれども、増額の関係では県の平均よりもかなり上のほうにあるなというのを受け止めております。こうした中で、県が今度指導するというので、全国知事会が1億円をそれぞれの自治体で、しっかりと急に上がらないような方策を講じるということで、政府に対して1兆円の予算編成を要請しております。これらのことは全国

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

知事会ということですがけれども、地方団体の一つであります、全国町村会やあるいはそういった中でも、このような話やなにかがあるのかどうなのか、また 1 兆円の予算要望に対して、町長のちょっと所見を伺いたいというふうに思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 伊藤議員さんの一つちょっと確認といいますかあれなのですが、昨日信濃毎日新聞に国保料の一覧が出ました。今おっしゃられたように対前年比からすると、信濃町は 4000 いくらか 5000 いくらかでしたか、増になっているよということで、単純比較をすればそういうことになっているのです。あの記事の中にもありますように、例えば中野市さんも 9 年間上げてこなかったと、こういうことでありますし、それから信濃町も 5 年間過去、国保料については据え置いてきたと、そういう経過の中での結果的な数字ですから、そのへんは何て言いますか、読む時の中味としてひとつ頭の中に入れてほしいというふうに思います。今、全国知事会が国に対して 1 兆円の国保に関する財政支援といいますか、財政の支出をとということで、要望されたということでありまして、これは今回また特に今年度からといいますか、県が都道府県がその国保の財政の運営主体なんだということでスタートしているわけでありまして、そういった意味で、新たな動きとして、現全国知事会がそういう動きをされたんだろうというふうに思います。私ども町村会としても、過去毎年のように、国に対して財政のしっかり裏付けを、国としてやってほしいという要望は 29 年度もやっていますし、今回私ちょっと全国町村会の大会に、初登庁の日だったものですから、行かなくて、まだ資料ちょっと持ってないのですが、そんなことで、町村会としても、しっかりとそんな要望は重ねているという状況であります。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) 信毎の一覧表の件は、十分私も見たつもりでございました。特に小布施町は非常に高くなったなあということも言っていますし、大鹿村との差は非常に、何倍でしたかね、差があるということも認識しております。全国知事会の要望また全国市町村会の要望もぜひ国のほうに届くように、私たちも応援できたらなというふうに思っております。

次に新規就農者への支援について伺いたいと思います。横川町政 2 期目の確かな町づくりの中でも、新規就農の拡大を掲げております。就農の形態はいろいろあると思いますが、若い世代が、この町で農業を生業にしようと頑張っていることは、私自身も大いに期待をし、歓迎したいというふうに思います。高齢化や離農あるいは規模縮小、こういうことが進んでおりまして、農業を担う人材不足、これによって生産力の低下、あるいは遊休農地の増加が大変懸念されるころでもあります。新規就農者は国や県あるいはまた市町村などの支援制度の充実などによりまして、増加をしてきております。しかし、現代の情勢の中で、各産業の人材不足、こういうところから、40 歳未満の就農者、減少傾向になりつつあります。担い手の確保と育成が大事になってきていると思うわけですが、そこで町長にお聞きしますが、町政 2 期目にあたり農業支援、とりわけ新規就農の拡大にどう取り組むのか、所見を伺いたいと思います。



## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) はい。新規就農というのは、この信濃町の農業を今後の事を考えますと、極めて大事な分野だというふうに思っています。今までも、荒廃地等々の問題で、農業委員会を中心にご苦労いただいて、新たな農業委員会制度もできたりしながら、ご苦労いただいているわけであります。要は新規就農の皆さん方が、その思いがあっても生活ができるかどうか、つまりそれが一番の課題なのかなというふうに思います。制度上の中でいろいろと支援事業、金銭的にも技術支援的にもあるわけですが、いざその新規就農として、その職に就きたいということになりますと、やはりその定住移住もそうなのですが、本当に決断を持って、その人たちが対応といたしますか、そこに望んで来られるということをございますので、今ある制度上のこともしっかりと支援しながら、その皆さん方の思いが、さらにどういう思いをお持ちなのかということ、しっかりと受け止めさせていただきながら、また新たに支援できる方法があれば、しっかりと対応してまいりたいなというふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4番 (伊藤博美) 新たな支援ができるものがあれば、ぜひひとつ町のほうでも、積極的に進めていっていただきたいなというふうに思います。信濃町では、7人の皆さんが補助金交付の要綱に該当しまして、補助金の交付を受けております。町ではどうなのでしょう。担当課長に伺いますが、就農の実態というものは把握しておりますでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 小林産業観光課長。

■産業観光課長 (小林義之) 就農の状況につきまして、今までは営農指導につきまして、県の農業改良普及員、JAの営農指導員が行っておりまして、また、農地の相談についても、農業委員さん等で対応させていただいております。また、毎年ですけれども、今までは県の農業改良普及員と町とで個別の面談をさせていただきながら、営農の状況を確認をしながら、指導も進めてきておりました。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4番 (伊藤博美) 7人の皆さんは準備型から、経営開始型と考えて良いと思うのですが、9月の議会の時に、私質問で担当課長がサポート体制の構築が定められてきていると、チームを作り支援を行う事としているのだということをお答えになりました。この支援体制というものは、少しは進んでいるのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 小林産業観光課長。

■産業観光課長 (小林義之) 平成29年度から中間評価を行うというようなことで、営農開始後の3年目でを行う事となりまして、28年度以前に就農した方を対象に、今回試行的

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

中間評価を実施することになっておりますけれども、今年度につきましては、就農の報告が来年の2月にお受けいたしますので、その際面接を行うよう実施する予定となっております。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4番 (伊藤博美) 就農をしている皆さんと話をしていきますと、私、全員まだ話は聞いてないのですが、大方の皆さん方と会って話をしております。それぞれ考え方それから目指すものですね、あるいはまた志向の仕方も違うのです。ですからひとり一人の話を聞くということが、大事だなというふうに思っております。こうした中で、どうなのでしょう、町のほうでも、新規就農の皆さん方と話す機会というものは、何か行事やなにかであるのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 小林産業観光課長。

■産業観光課長 (小林義之) 認定農業者の協議会というものがあまして、町ではその事務局も行ってございまして、認定農業者と新規就農者の方々の情報交流なども行わせていただいておりますし、今年度につきましては、新たに町から要望する中で、長野農業改良普及センターと営農支援センターの共催で、米作りの基礎を学ぶ稲作の勉強会をこの冬3回行う予定で、本日第1回目の勉強会を行っているところであります。この若手農業者を対象に、実施をしております、水稻栽培の工程管理、また、苗づくりや土壌管理、除草剤の作用や利用方法、春先の耕うんや代掻きのポイント、また、販売品の表示の仕方など、米作りの基本なども、基礎研修というような形で行っているところでございます。また、販路拡大のための首都圏のデパートでの農産物のPRでも、町と一緒に協力をさせていただいているところであります。また、県におきましても、長野地域の新規就農者の研修会など、意見情報や交流の場も提供をされているところでございます。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4番 (伊藤博美) 積極的に就農の皆さん方との話す機会を持っていただきたいというふうに思います。私、9月の議会の時は、5点に渡って、こういう点が問題ではないですかということを申し上げました。今回この中から、2つの点について、特にお話しをお尋ねしたいというふうに思います。1つは何と言っても、こちらの信濃町に来て、やはり住む家なのですね。居住地、家屋の問題です。皆さんに聞いてみますと、インターネットかなにかで調べるのだと思うのですが、信濃町は他の町村と比べると、空き家バンクが少ないと言っているのですね。そういうふうなことも言われました。今信濃町では、空き家バンクの登録がどのくらいされているのでしょうか。もしわかりましたら、ひとつお答え願いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 高橋総務課長。

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

■総務課長（高橋博司） 若干前の数字で恐縮なのですが、平成 30 年度 2 月末現在で、累計登録件数が 161 件でございます。

●議長（小林幸雄） 伊藤議員。

◆4 番（伊藤博美） 数字的に聞きますと、さほど少ないというふうな感じはしないのですけれども、住むところとそれからお金の関係なのでしょうかね。そういう関係で少ないかなというふうな感覚を持っているかもしれませんが、私これ 4 人に聞きましたら、3 人がそういう答えなのですね。空き家バンク信濃町少ないですよというふうに言われました。それから購入するにしても借家にするにしても、これも一番の課題なのですね。耕作地が多少離れていたとしても、今車がありますから、若い人達なので、あまり農地が離れていても、問題がないのではないかなというふうに思っております。

2 つ目は、土地農地の問題ですね。皆さん大変苦勞しています。こちらに来てから、この土地が空いていますよということで、簡単に借りてやり出したら、水があつてなかなか作物にはならなかったとか、石ころがごろごろしていたと。あるいは土の状態がよくなかったというようなことも聞いております。ただ幸いにもこの皆さん、地域の皆さん方と非常に接触を持っております。地域の皆さん方の行事やなんかに参加した時に話をしたら、俺の土地をじゃあ貸してやるというようなこともありまして、紹介してもらって、大変ありがたかったということも聞いております。荒廃農地それから手入れのされていない農地でなくて、より良い農地をぜひ紹介していただけたらと思います。農業委員長さんにちょっとお伺いしますが、農業委員会としても、新規就農者のこれからのことを考えて行かなければいけないというように思いますし、また、より良い農地をぜひ紹介していただきたいなと思いますが、いかがでしょう。

●議長（小林幸雄） 永原農業委員長。

■農業委員長（永原邦徳） はい。農地の関係につきましては、新しい農業委員会制度になった以降、私ども農業委員会の中でも、毎月の定例総会がございます。その中で毎月上がって、窓口での相談でこの農地を何とかしてほしいとか、いろんな相談がございます。それをすべて一覧表にして、農業委員で共有をしております。そしてその中で、農業委員がいろいろあつせんをしたり、自分がやってみたいとか、いろんなことが今出てきております。そういうことを繰り返しやって行きたいなど、そのように思っていますし、今言われております新規就農者の方々との交流も含めて、農地等あつせんも少しですけれども出てきていると、そういう状況です。

●議長（小林幸雄） 伊藤議員。

◆4 番（伊藤博美） はい。ぜひ農業委員会のほうからも横からのサポートをしっかりとっていただきたいなと思います。新規就農の相談窓口というものは、いつも開けているとは思いますが、新たな新規の予定者は、来年度に向けてあるのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

■産業観光課長 (小林義之) 町では J A さんですか、県で就農相談会などを東京等でもやっておりますので、そういう場で紹介をしておりますけれども、今のところ来年度に向けて新規でやりたいというような話は、今のところ進んでおりません。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) 皆さんの就農者の話を聞いていますと、やはり人と人とのつながりだっているんですね。自分がここへ来てやって、こういうふうな、やっている方は非常に有機農法の方が多いのですけれども、有機栽培をやっていて、その繋がりでもってやっている方であればこそ有機農家のお客さんを大事にすると思うのですね。そういった横の繋がりを人と人とのつながりを大変、大事にしていると思いました。有機栽培をして、販売先を自ら見つけているだけに、大変お客様を大事にすることと同じように人と人とのつながりを大事にしているんだなというふうに思います。これは私先日会った方に聞きましたら、自分は静岡県でなんかやっていたというので、その人がこちらに来て、今水田を中心にしてやっている方なのですね。自分の友達が来年の 4 月からこっちに来たいというふうに言っているのですよという話もお聞きしました。ぜひまた相談がありましたら、力になってあげてやりたい、していただきたいなというふうに思います。一人でも多くの若い世代が、町に定着して、家族を持っていただいて、そして就農して、これが人口増に、お子さんが生まれて人口増に繋がればなというふうな期待もしております。町としてもしっかりとサポートをすることを期待して、次の質問に移ります。

除雪対策についてお伺いをいたします。雪深いこの信濃町にとって、道路を確保するということは、死活問題にも繋がります。通勤通学はもとより、日々の暮らしを支える重要な施策であります。各地区の除雪会議が 11 月末から連続して開かれました。私も傍聴人として、柏原地区と野尻地区の会議に出席させていただきました。その報告によりますと、町道認定路線の延長は 311 キロメートルにも及びます。その内早朝の除雪が 190 キロメートル以上。それに対応する除雪車は 53 台整えているとのことでした。どうなのでしょう。除雪車 53 台の体制は、53 台の体制は例年どおりで十分に間に合うというふうに考えていますか。もう少し充実すればいいかなというふうにお考えなのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■建設水道課長 (佐藤巳希夫) はい。除雪の関係ということで、お答えさせていただきたいと思います。機械が多ければ多いほどというようなこともあるのかもしれませんが、現状では 53 台で、十分対応できるかというふうに考えているところでございます。以上です。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) それではその除雪車とオペレーターの関係についてですが、本年度



## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

新たに協議会の皆さんと 5 年の契約を結びました。これによって除雪車の確保は、各企業が努力するでしょうし、オペレーターについても努力はしていると思いますが、人口減少と高齢化ですね。これによって難しくなるのではないかなというふうにも危惧するところがございます。除雪というのは、期間限定の作業でありますから、建設業界に若い労働者がどんどん入ってくるというふうな状態であれば、若いオペレーターもどんどん育っていくというふうにはなるとは思います、なかなかこれも難しいのではないかなと思います。どうなのでしょう。町として例えばオペレーターの育成とか、そういうふうな考えの施策というふうなものはあるのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■建設水道課長 (佐藤巳希夫) はい。除雪のオペレーターにつきましては、県下、降雪地帯の会議等でも話題になるところでございます、どこも人手不足が見込まれるという状況は、把握しているところでございます。ですが、町で直接オペレーターの養成等というところまでは、今のところ考えてはございません。今回 5 年間ということで、除雪を長期契約ということで、お願いしたということの一つには、オペレーターの確保であるとか、そういうものにつきましても、長期的な展望を持って、事業者の皆さんにやっていただけるというようなことも含めて考えて、そういうようなことになった次第でございます。以上です。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4 番 (伊藤博美) 建設業界も決して楽な業務ではございませんので、何らかの手を打っていかねばいけないのではないかなというふうに思っております。

次に、雪の押し込み場所の関係について、お伺いしたいと思います。毎年大変苦勞している状況はあると思います。私が参加しました除雪会議の報告でもありました。しかし、区長さんや総代さんからは、ここの場所を確保したという発言のようなことはありませんでした。場所は足りているのかどうか、基本的には各地区の担当企業が、これ自主的に探すというふうなことになっているのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■建設水道課長 (佐藤巳希夫) はい。雪の押し込み場所につきましては、なるべく除雪が深夜から始まって、朝は 7 時まで終わるというようなことを目標にしておりますので、その中で作業効率を上げること、あるいはサイクルタイムと言いますか、不用な動きがなるべく少ない方が効率が上がるわけで、雪を押しに行く距離が少なく、近辺に押し込める場所があれば一番良いというふうなところではあります。そんな中で、事業者さん、請負をされた事業者さんも、例年どおりお願いをさせていただいておりますし、これからにつきましても、事業者さんと共に町のほうでもまたお願いをしていきたいというふうな考えています。以上です。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

◆ 4 番 (伊藤博美) この雪の押し込み場所、企業の皆さん方が主体的にするのでしょうか、これもその契約の中には入っているんだというふうに見て良いのでしょうか。

● 議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■ 建設水道課長 (佐藤巳希夫) 押し込み場所を借上げするとか、そういうような形の契約はございません。ですので、地形それから道路の形状とか、そのへんにつきましては、様々でございますので、作業効率等も含めまして、そのへんは除雪業者の皆さんに任意で探していただいているというような状況でございます。

● 議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆ 4 番 (伊藤博美) 雪の押し込みの関係や何かで、その住民とのトラブルや苦情があるかどうかということもあるのですが、企業というのはやはり町と住民の間に入り、本業の仕事の事を考えると、弱い立場になってしまうのですね。町が住民懇談会を始め、あらゆる機会でも積極的に住民に協力を要請しても良いのではというふうに思っております。ぜひ町のほうでも努力をしていただきたいなと思います。それからトラブル苦情についてですが、除雪会議では、町道に関して問い合わせ先が、町の建設係それから各地区の担当業者へと明記されておりました。町はそのトラブルや苦情についてはどんな対応をされているのでしょうか。

● 議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■ 建設水道課長 (佐藤巳希夫) はい。例年と申しますか、自然が相手なものでございますので、日々の状況等、毎日変わってございます。そのような中で例年 100 件を超えるほどのご意見や苦情等もいただいているところでございます。様々な内容ではございますので、対応可能なものにつきましては、委託業者の皆さんに連絡をし、対応しております。除雪会議の中でもお願いしてまいりましたが、朝方、急に雪が降ってくるというような、例えば 3 時ぐらいには、晴れていて、朝、急に 6 時頃になって降り出すというようなこともございまして、そのような時は、朝 7 時には到底間に合わないというような状況になるようなこともございます。そのようなこともお願いを申し上げる中で、十分ご理解をいただけるようお願いしていきたいというふうに思っております。

● 議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆ 4 番 (伊藤博美) 長いシーズンのことですから、毎年同じようなトラブルや苦情があるんだろうとは思いますが。業者の皆さん方に聞きましても、バックする時にピーピーとなるんだと、あれも一つの苦情でもって言われちゃうんだよなあなんてこともおっしゃっていました。大変な苦労だと思います。今年の契約で向こう 5 年間は、同じ企業が同じ場所を除雪すると思いますけれども、前年の企業と替わった時、やはり住民の皆さんが一番不安があります。一番良いのは地元の企業ですと、どこに何があるかだとか、地

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

形や何かが大変良くわかって良いのですけれども、地元企業の優先を、この5年間で施策を考えていただきたいなというふうに思っております。豪雪の時も生活に支障のないように、しっかりと対応を考えていっていただきたいなと思います。

次に入札についてお伺いいたします。入札は各ブロックごとにJVを組んで行いますが、4ブロックそれぞれの入札価格と率ですね。どのくらいなのでしょう。

●議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■建設水道課長 (佐藤巳希夫) はい。町内4ブロックということで、野尻、柏原、古間、富士里という形で、JVを組んでいただいて入札をしていただいた次第です。町内3地区につきましては、落札率が100パーセントでございました。1箇所につきましては73パーセントほどでございました。以上です。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4番 (伊藤博美) 5年に1回の入札だと思いますが、前回と比べて大きな変化というものはあったのでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 佐藤建設水道課長。

■建設水道課長 (佐藤巳希夫) 大きな変化と申しますか、落札率が70数パーセントというようなことがございました。その他は特段と申しますか、変化はなかったかというふうに思います。

●議長 (小林幸雄) 伊藤議員。

◆4番 (伊藤博美) 1箇所が70数パーセントだったということでございます。なぜこの数字が出たのか、ちょっと私もわかりませんが、これによって70数パーセントの地区にいた業者さんが、そこに入られなくて、他地区の除雪のほうに回るというふうなことも聞いております。なかなか入札の事ですから、それぞれの思惑があつてのことだとは思いますが。前の議会で同僚議員からの質問もありましたけれども、契約期間が5年間というのは、長くはないかなと思います。企業の中にもそういう意見もありまして、せいぜい町長と同じ任期ぐらいな期間にしてもらいたなあとということもありました。この5年間の中で、協議会としっかり検討してはと思います。いずれにしても、安全で安心の生活が営まれる、これを願い除雪事故がないことを祈って、本日の私の質問を終わりにしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 以上で、伊藤博美議員の一般質問を終わります。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度に留め、延会にいたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

(「なし。」の声あり)

## 平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

---

ご異議なしと認めます。よって本日はこれで延会とすることに決定いたしました。念のため申し上げます。明日 7 日の本会議一般質問は、午前 9 時 45 分からの開会となりますので、時間までにご出席ください。ご苦労様でした。

(午後 4 時 9 分)